

2022年 副業・兼業に関する調査 -個人編-

株式会社アイデム
東日本事業本部
データリサーチチーム

調査概要

調査対象

- ▶ 副業に興味がある、もしくは既に副業をしている18-70歳

調査期間

- ▶ 2022年2月18日～20日(3日間)

調査方法

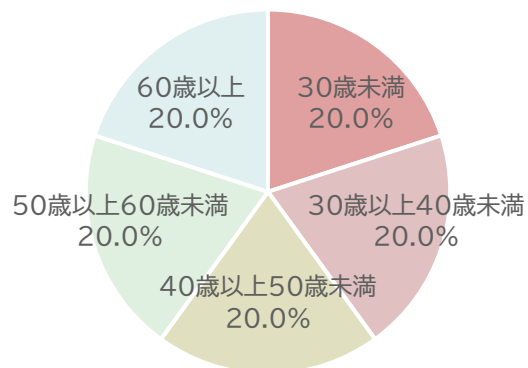
- ▶ インターネットリサーチ

有効回答数

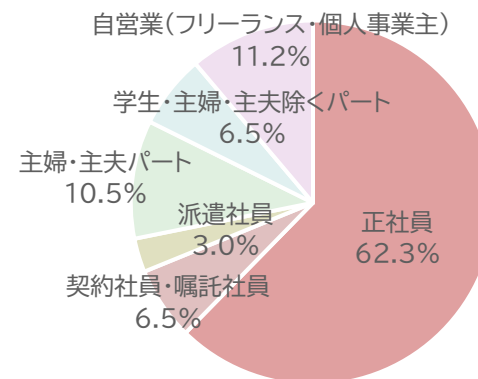
- ▶ 600件

調査概要

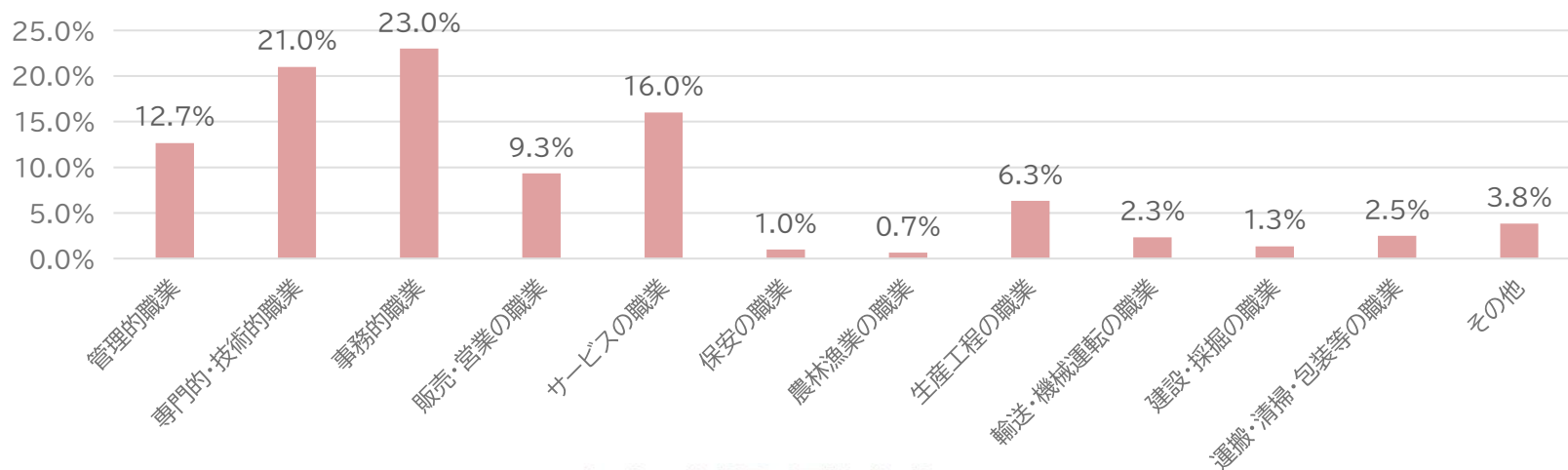
年代



現在の就業状況



職種(副業除く)



副業に関心がある人の職業

副業に興味がある人と、副業をしている人の、現在の職業をきいた。

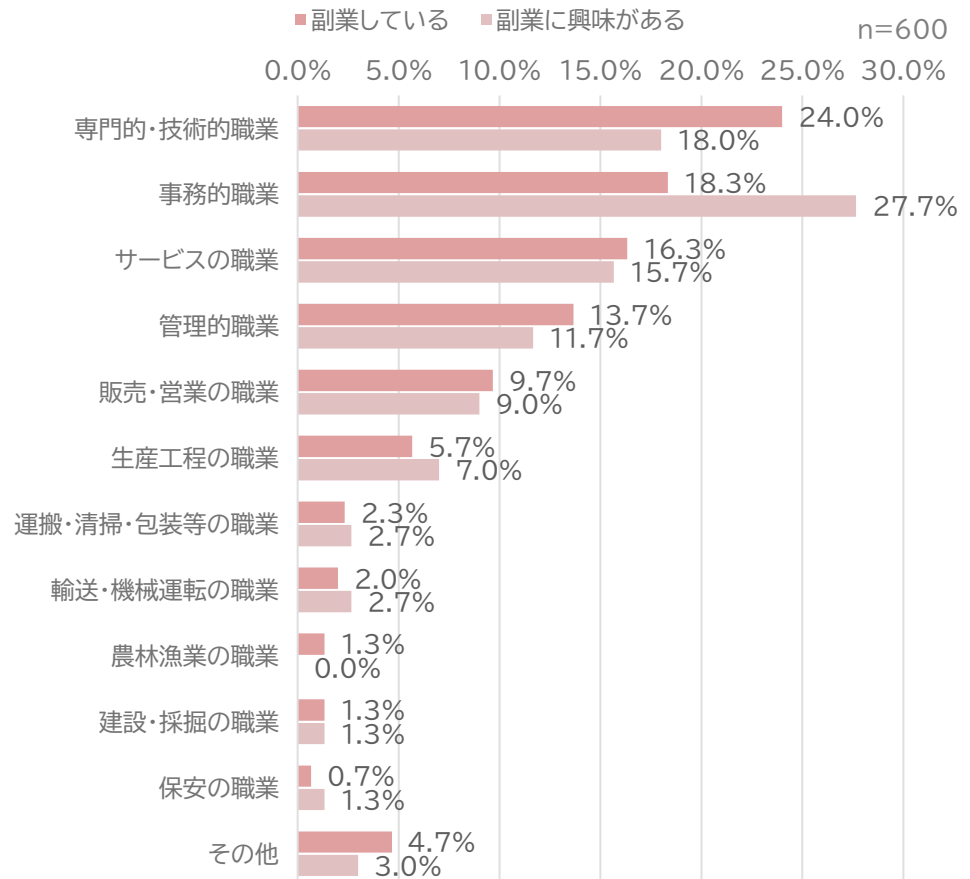
副業をしている人の中で最も多かった職業は「専門的・技術的職業」の24.0%、次いで「事務的職業」の18.3%、「サービスの職業」が16.3%と続いた。

副業に興味がある人の中で最も多かった職業は「事務的職業」の27.7%、次いで「専門的・技術的職業」の18.0%、「サービスの職業」が15.7%と続いた。

上位の専門的・技術的職業や事務的職業は、インターネット環境とコンピューターがあると完結できる内容の仕事も多い。

その一方、保安の職業や建設・採掘の職業では、実際の現場に赴いて進める仕事も多い。従事する仕事内容によっては、副業に関心がある人が少ないことがわかる。

副業に興味がある人/副業をしている人の職業

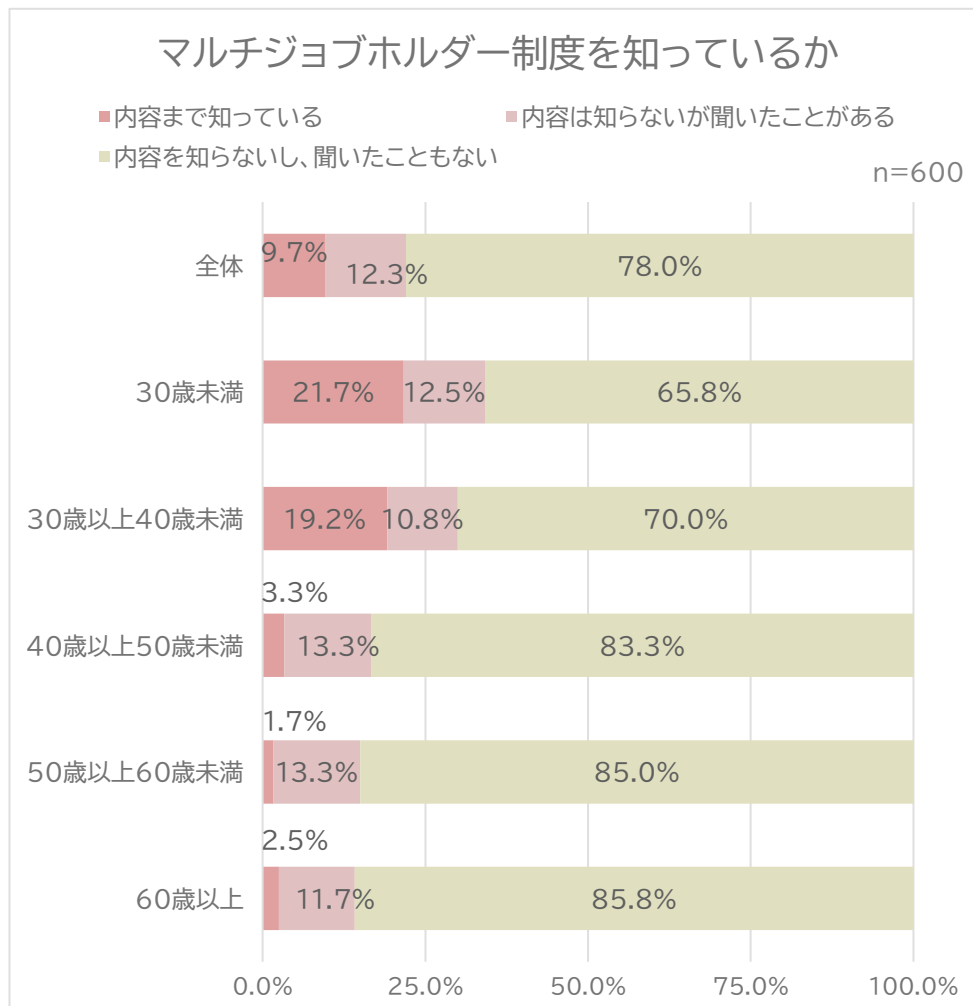


「雇用保険マルチジョブホルダー制度」の認知度

対象者全員に、「雇用保険マルチジョブホルダー制度」を知っているか尋ねた。

「内容まで知っている」は9.7%、「内容は知らないが聞いたことがある」は12.3%、最も多かったのは「内容を知らないし、聞いたこともない」の78.0%だった。8割は耳したことが無く、労働者側に制度が認知されていない状況がわかる。

年代別にみると、「内容まで知っている」と「内容は知らないが聞いたことがある」の合計が最も多いのは「30歳未満」で、年代が上がるにつれて認知度が下がっている。この制度を利用することができる人は「60歳以上」に含まれるが、「内容を知らないし、聞いたこともない」がどの年代よりも最も多かった。



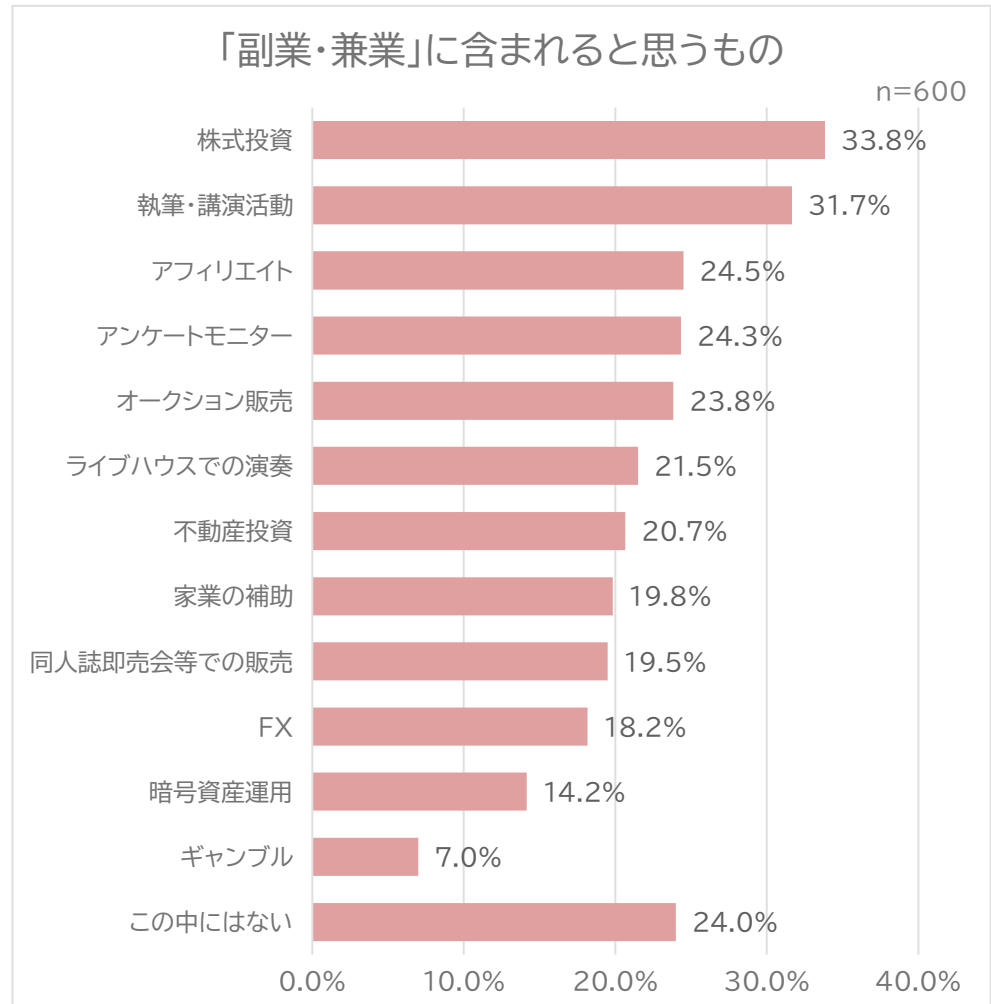
「副業・兼業」に含まれると思う事柄

対象者全員に、次のうち「副業・兼業」に含まれると思う事柄は何かをきいた(複数回答)。尚、選択肢には企業に所属して従事するような仕事内容を記載していない。

最も多かったのは「株式投資」で33.8%、次いで「執筆・講演活動」が31.7%、「アフィリエイト」が24.5%となった。知識や技術が必要とされるものを活かせる方法がイメージされる。

「アンケートモニター」「オークション販売」等も上位にあり、手軽に挑戦できることも重要なかもしれない。

一方、「ギャンブル」は7.0%と低く、これは遊戯としてとらえられているかもしれない。また、「この中にはない」が回答者の約4分の1となっている。



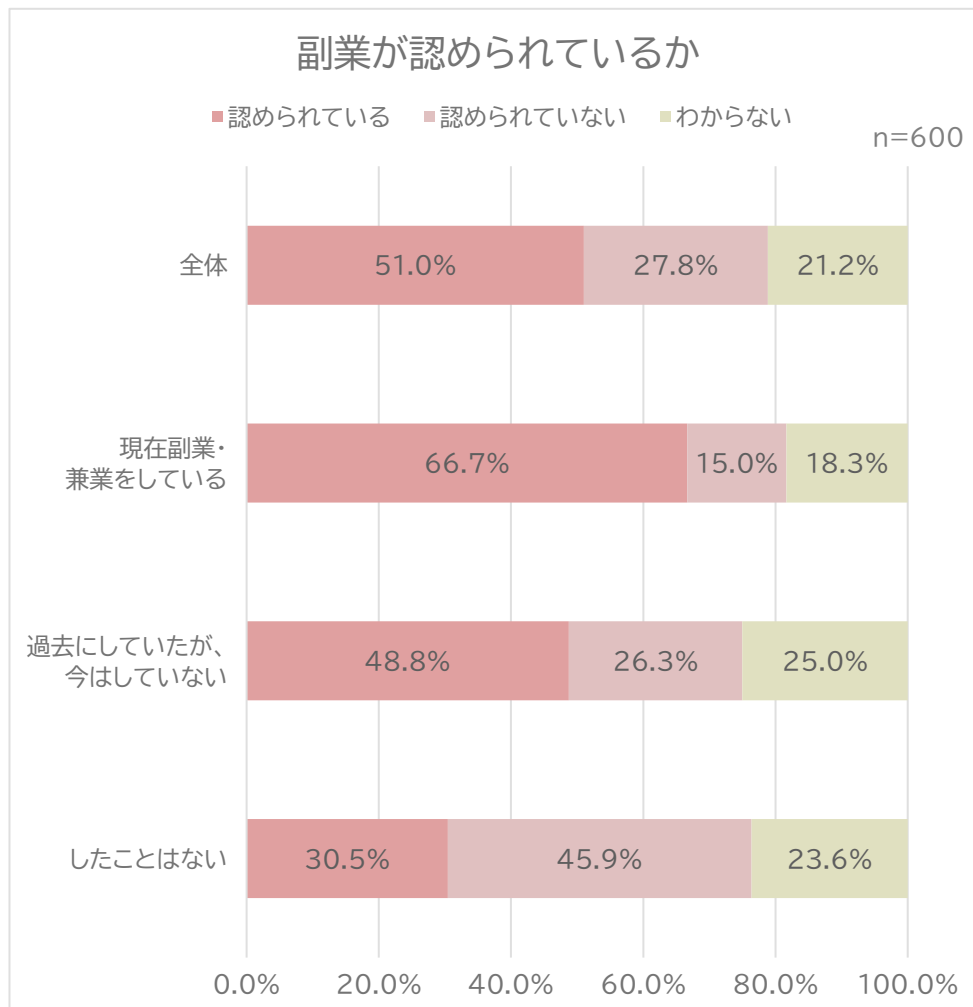
副業は認められているか

対象者全員に、本業として勤める企業では、従業員の副業・兼業が認められているかをきいた。

全体では、「認められている」が51.0%、「認められていない」が27.8%、「わからない」が21.2%となった。約半数の企業では副業が認められているようだ。

現在副業をしている人のみに絞ると、「認められている」が66.7%だった。「認められていない」が15.0%で、許可が無くとも実際に副業をしているという人もいた。

今まで副業をしたことがない人に絞ってみると、「認められていない」が最多の45.9%だった。



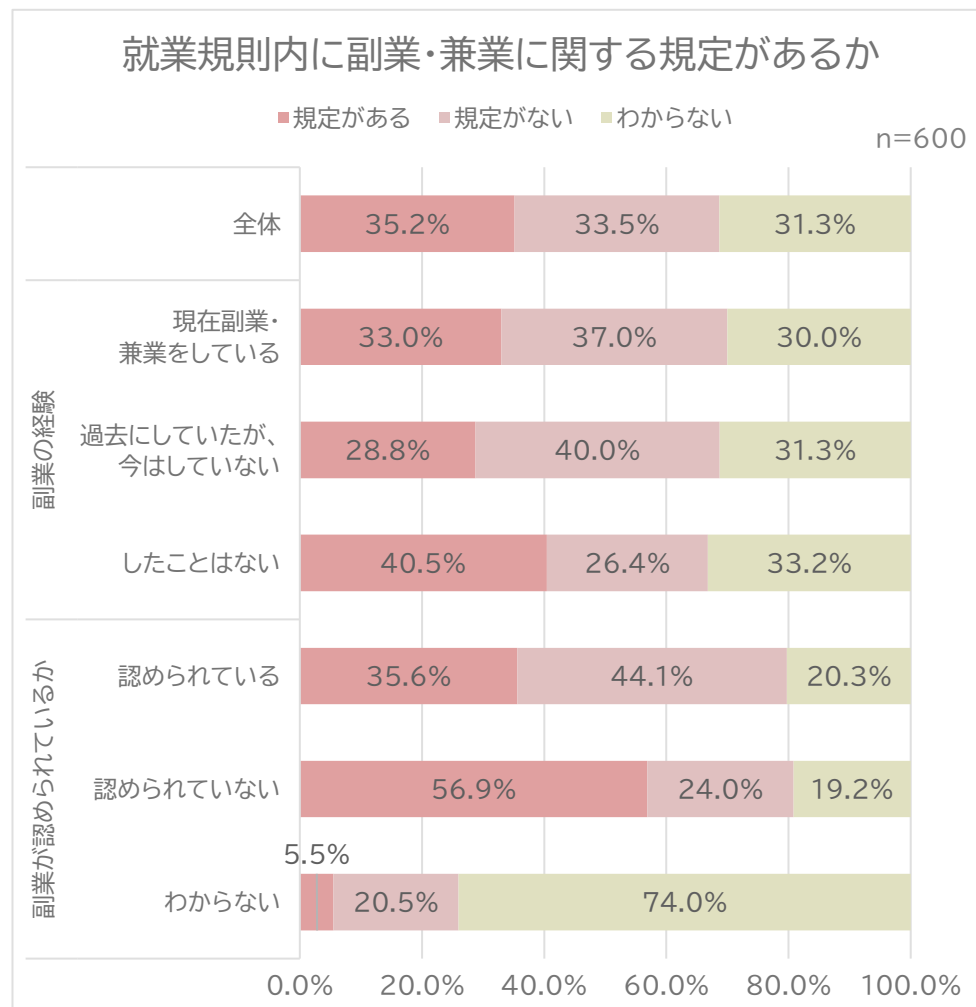
就業規則内に副業・兼業の規定があるか

対象者全員に、本業として勤める企業では、就業規則の中に副業・兼業に関する規定があるかをきいた。

全体では、「規定がある」が35.2%、「規定がない」が33.5%、「わからない」が31.3%だった。

副業の経験別にみると、副業を「したことはない」人の所属する企業では「規定がある」が40.5%で最多だった。「現在副業・兼業をしている」人の所属する企業では「規定がない」が37.0%で最多だった。

所属企業の副業許可別にみると、副業が「認められている」企業では「規定がない」が最も多く44.1%だった。副業を「認められていない」企業では「規定がある」が最多の56.9%だった。副業を認めていない企業では、禁止規定を定めていることが多いようだ。また、副業の許可について「わからない」人は、副業の規定の有無も把握していない場合が多いようで、「わからない」が最多の74.0%となった。



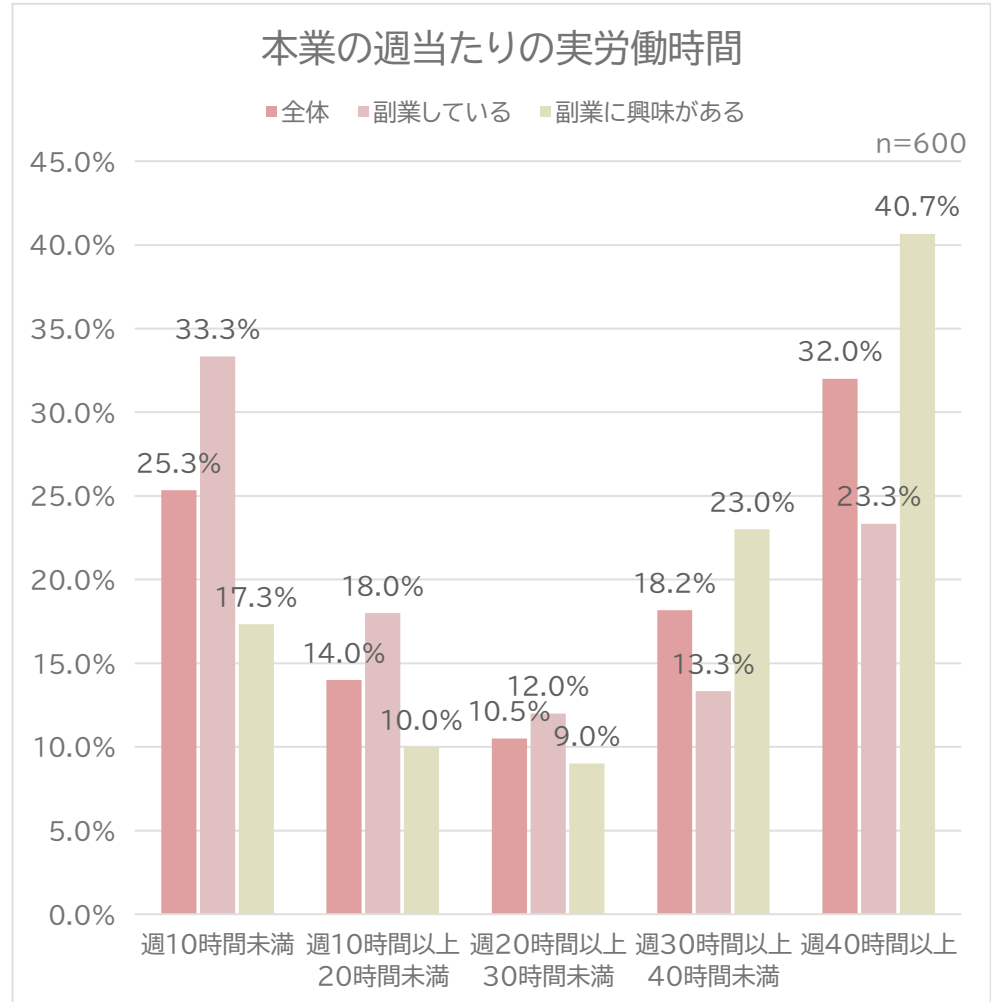
本業の労働時間

対象者全員に、本業として勤める企業での、週当たりの実労働時間(残業時間も含む)をきいた。

全体で最も多かったのは「週40時間以上」で32.0%以上、次いで「週10時間未満」が25.3%、「週30時間以上40時間未満」が18.2%となった。

現在副業をしている人に絞ると、最も多かったのは「週10時間未満」の33.3%だった。週30時間未満までは、全体平均よりも高くなっている。

現在副業はしていないが、副業に興味がある人に絞ると、最も多かったのは「週40時間以上」で40.7%だった。30時間を超える労働時間の人の割合は、全体の平均よりも多い。

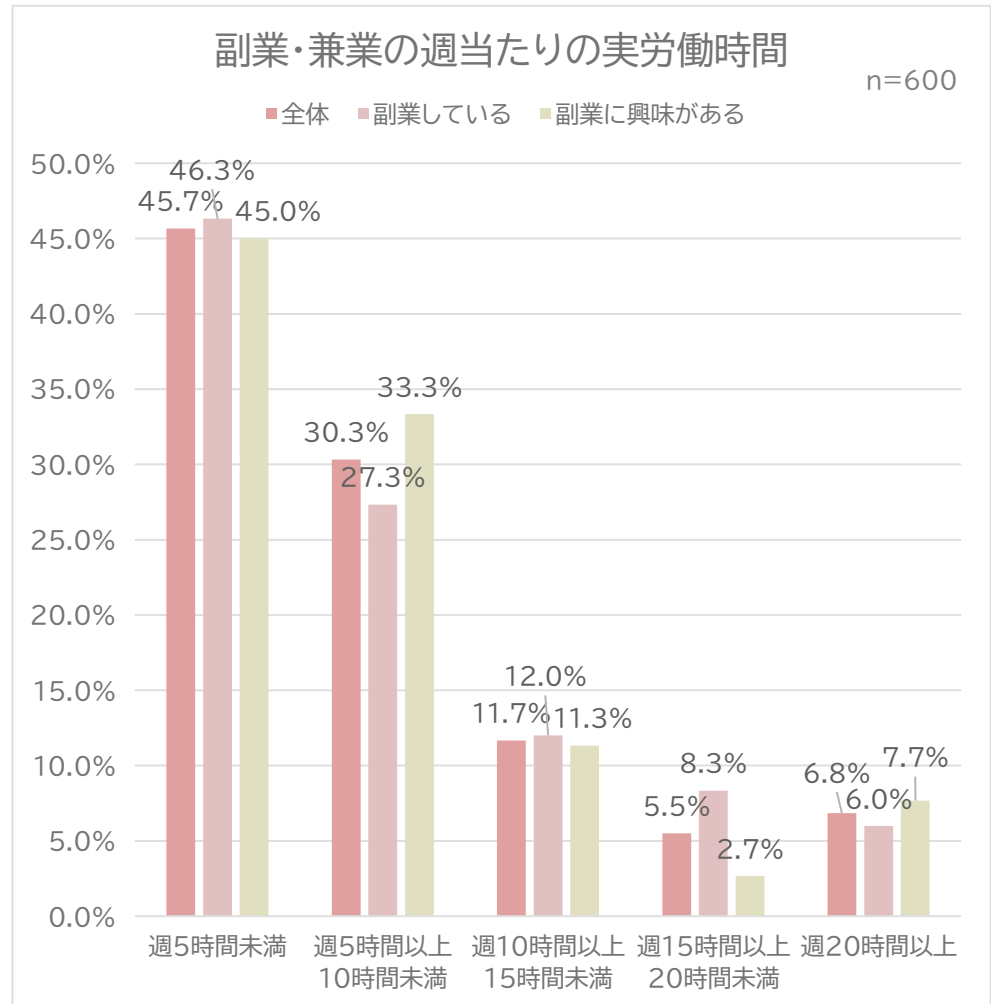


副業・兼業の労働時間

現在副業をしている人に、副業・兼業の週当たりの実労働時間(残業時間を含む)をきいた。また、副業に興味がある人に、実際に副業・兼業を始めるとしたら、週何時間程度費やすことができると考えているかをきいた。

全体で最も多かったのは「週5時間未満」で45.7%となり、およそ半数となった。次いで多かったのは「週5時間以上10時間未満」の30.3%で、時間が多くなるにつれ回答割合は少なくなった。

現在副業をしている人が実際に副業・兼業で働く時間と、副業に興味がある人が考える副業に費やせる時間に、大きな差はみられなかった。



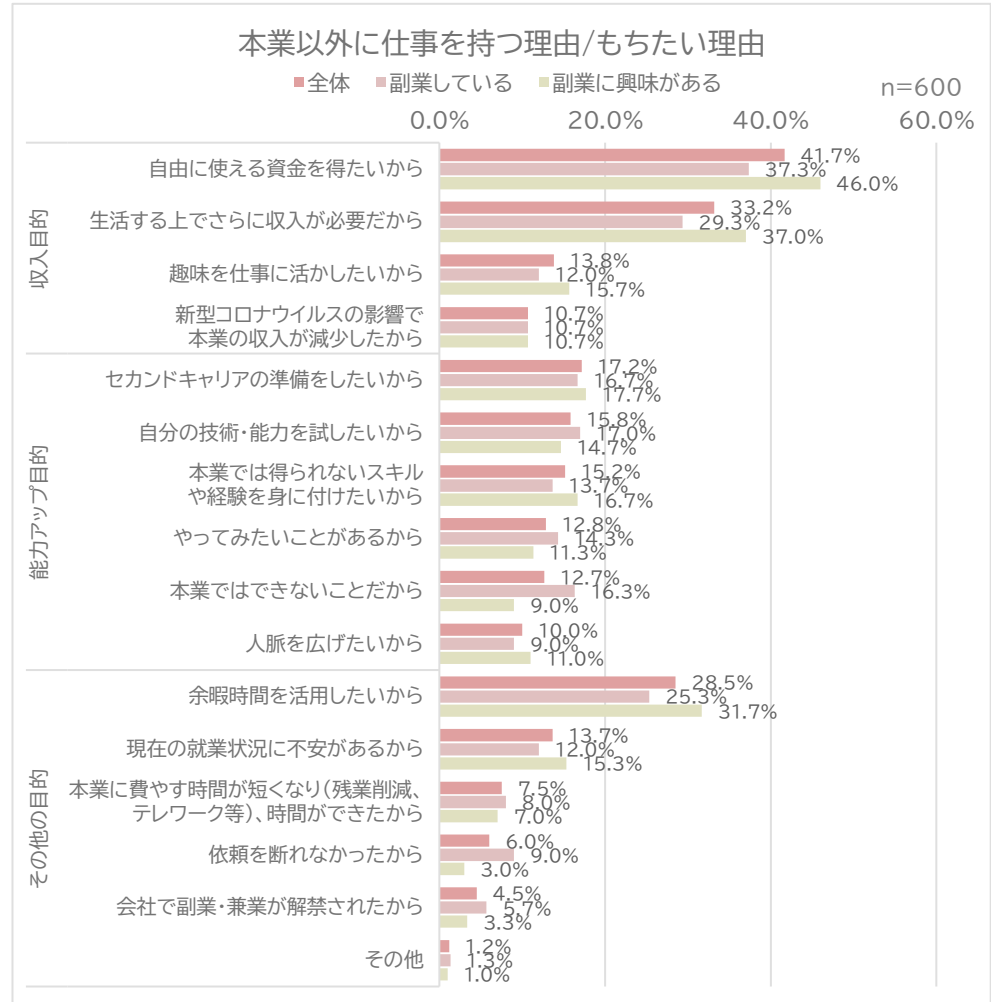
本業以外に仕事を持つ理由/もちたい理由

現在副業をしている人に、本業以外に仕事を持つ理由をきいた。また、副業に興味がある人に、本業以外に仕事をもちたい理由をきいた。どちらも複数回答。

全体で最も多かったのは「自由に使える資金を得たいから」で41.7%、次いで「生活する上でさらに収入が必要だから」が33.2%、「余暇時間を活用したいから」が28.5%となった。

現在副業をしている人の選んだ理由の中では、「自分の技術・能力を試したいから」(17.0%)、「やってみたいことがあるから」(14.3%)、「本業ではできないことだから」(16.3%)が全体より高い。挑戦や興味関心が意欲の基になっている人がいるようだ。

副業に興味がある人の理由の中では、全体上位3項目が特に高くなっている。特に収入目的で副業に関心を寄せている人がより多いようだ。

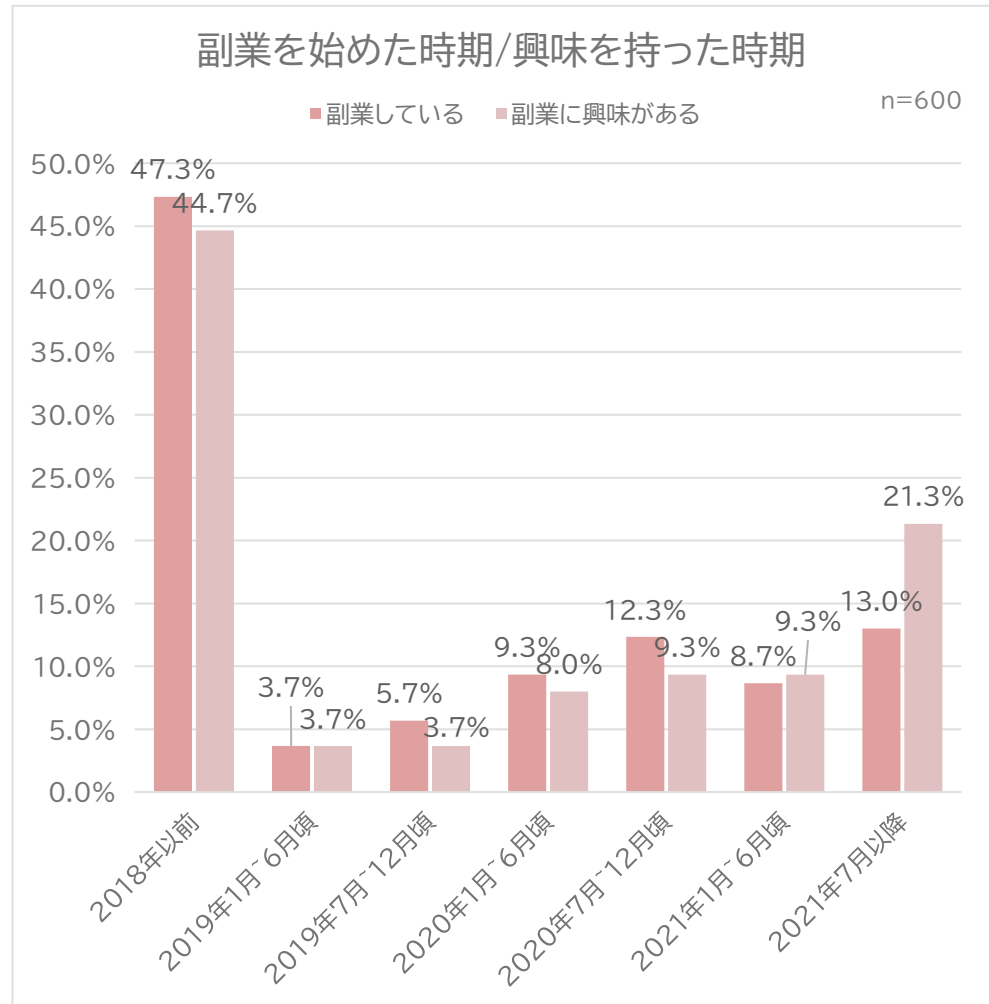


副業を始めた時期/興味を持った時期

現在副業をしている人に、いつごろから副業を始めたのかきいた。また、副業に興味がある人には、いつごろから副業に興味を持つようになったのかをきいた。

副業を始めた時期について、最も多かったのは「2018年以前」の47.3%、次いで「2021年7月以降」の13.0%、「2020年7月～12月頃」の12.3%となった。約半数の人は4年以上前から副業を行っているようだ。また、2020年7月頃は、日本では新型コロナウイルス感染症の最初の緊急事態宣言が終わり、日常の中で様々な制限が増えてきたころだった。本業で勤務の制限等があった人もおり、副業に踏み切った場合も想像できる。

興味を持った時期で最も多かったのは「2018年以前」の44.7%、次いで「2021年7月以降」の21.3%となっている。かなり前から副業への興味はあれど、実際に従事するまでに至っていない(又は辞めた)人がかなりいることがわかる。



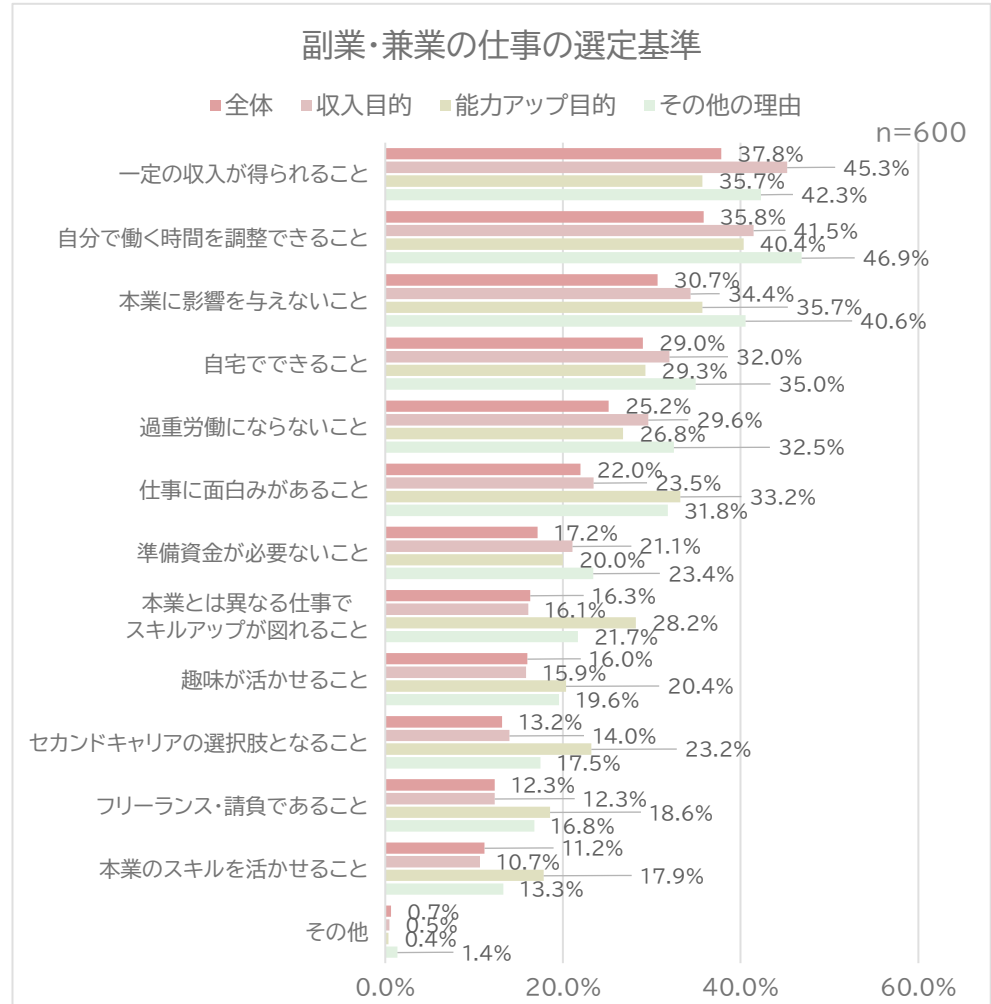
副業・兼業の仕事の選定基準

対象者全員に、副業・兼業の仕事の選定基準をきいた(複数回答)。

最も多かったのは「一定の収入が得られること」で37.8%、次いで「自分で働く時間を調整できること」が35.8%、「本業に影響を与えないこと」が30.7%となった。「自宅でできること」も29.0%で、約3割の人は場所を移動しない形を望んでいるようだ。

副業をする目的別に分けてみると(重複あり)、収入増を目的に挙げた人では、「一定以上の収入が得られること」が特に高く、45.3%だった。

能力アップを目的に挙げた人では、「仕事に面白みがあること」(33.2%)や「本業とは異なる仕事でスキルアップが図れること」(28.2%)、「セカンドキャリアの選択肢となること」(23.2%)が高くなっていた。



副業・兼業の仕事の探し方

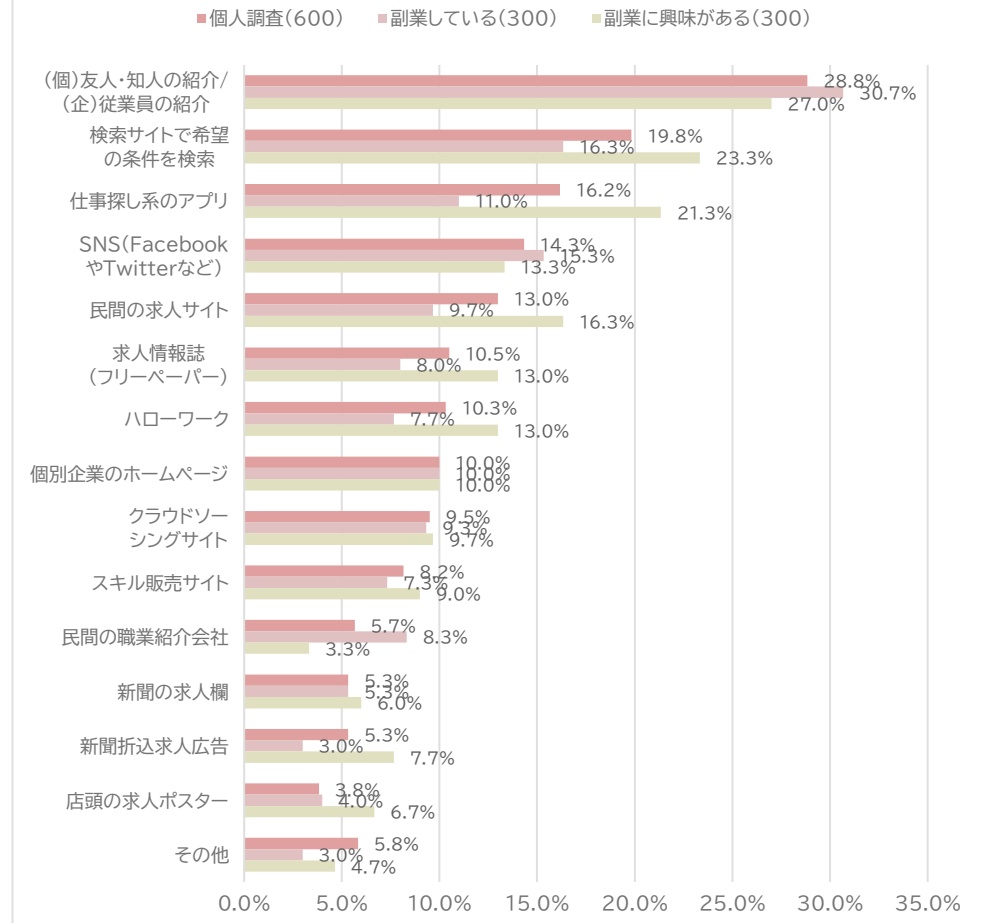
現在副業をしている人に、どのような方法で副業・兼業先を探したのかをきいた。また、副業に興味がある人には、副業・兼業先を探す前提としてその方法をきいた(複数回答、カッコ内数値はn数)。

最も多かったのは「友人・知人の紹介」で28.8%、次いで「検索サイトで希望の条件を検索」が19.8%、「仕事探し系のアプリ」が16.2%だった。

現在副業をしている人では、「友人・知人の紹介」のほか、「SNS(FacebookやTwitterなど)」(15.3%)や「民間の職業紹介会社」が他の軸より高くなった。

副業に興味がある人では、「検索サイトで希望の条件を検索」「仕事探し系のアプリ」「民間の求人サイト」が他の軸よりも高くなった。

副業・兼業の仕事を探す方法、募集方法



副業・兼業のメリット

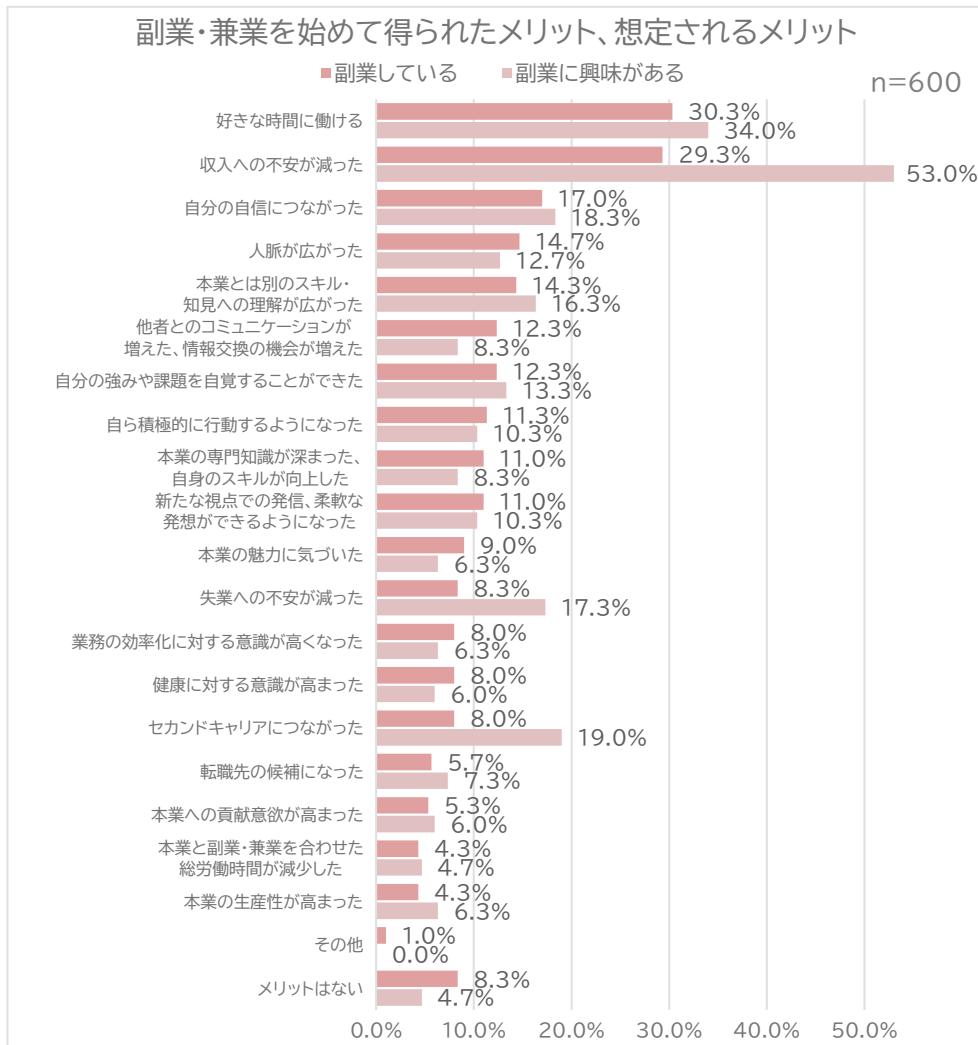
現在副業をしている人に、副業・兼業を始めて得られたメリットをきいた。また、副業に興味がある人には、副業・兼業をすることで得られると思っているメリットをきいた(複数回答)。

現在副業をしている人では、最も多かったのが「好きな時間に働ける」で30.3%、次いで「収入への不安が減った」が29.3%、「自分の自信につながった」が17.0%となった。

副業に興味がある人が考えるメリットとして最も多かったのは「収入への不安が減った」で53.0%、次いで「好きな時間に働ける」が34.0%、「セカンドキャリアにつながった」が19.0%となった。

特にこれから副業をしたいと考えている人の中では、副業・兼業をすることが、収入や失業に関する不安の払しょくにつながっている人が多いようだ。

「転職先の候補になった」という意見は1割未満で少ないようだ。



副業・兼業のデメリット

対象者全員に、副業・兼業をするうえで考えられるデメリットは何かをきいた(複数回答)。

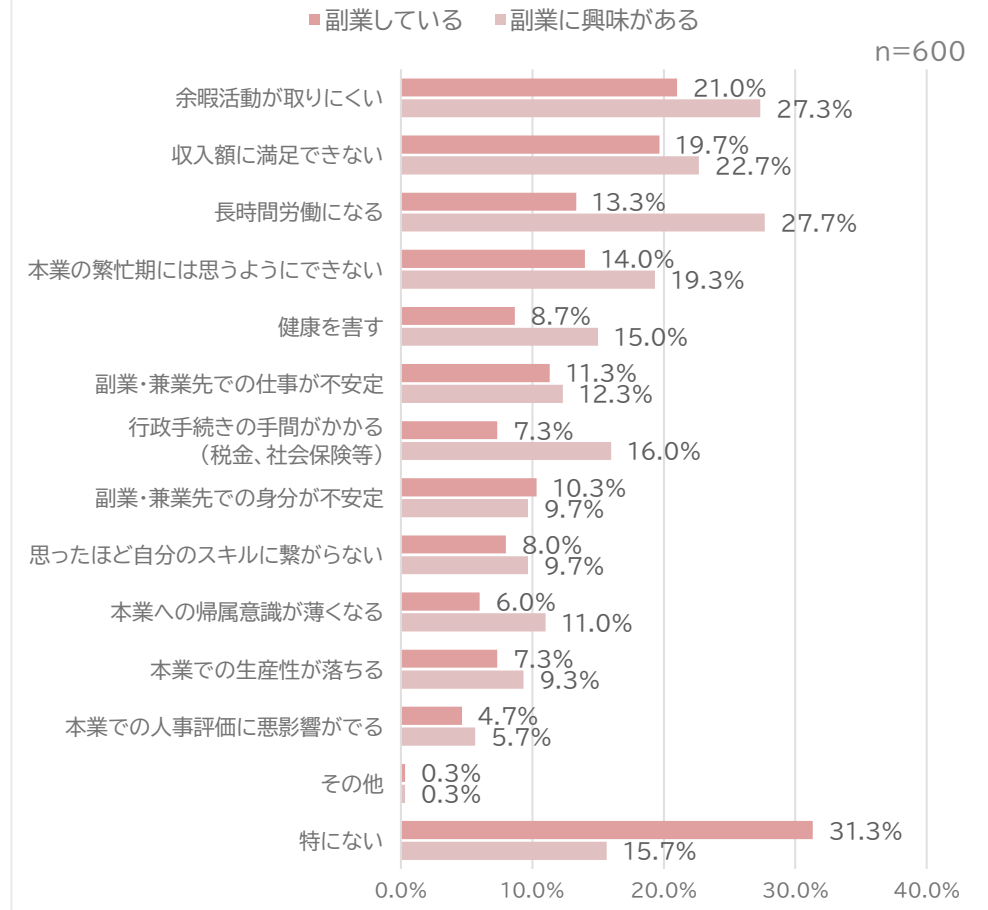
全体では、「余暇活動が取りにくい」が24.2%、次いで「収入に満足できない」が21.2%、「長時間労働になる」が20.5%となった。

現在副業をしている人では、「特にない」が最も多かった(31.3%)。およそ3割の人は現状マイナスと感ずることが無いようだ。

副業に興味がある人の中では、「長時間労働になる」がデメリットの中で最も多かった(27.7%)。「余暇活動が取りにくい」「本業の繁忙期には思うようにできない」という意見も多く、時間管理で懸念点が多そうだ。

「行政手続きの手間がかかる」や「健康を害す」については、まだ副業をしていない人にとっては懸念事項のようだが、実際に始めている人にとってはあまりデメリットとしてとらえられていないようだ。

考えられる副業・兼業のデメリット



本業・副業への満足度

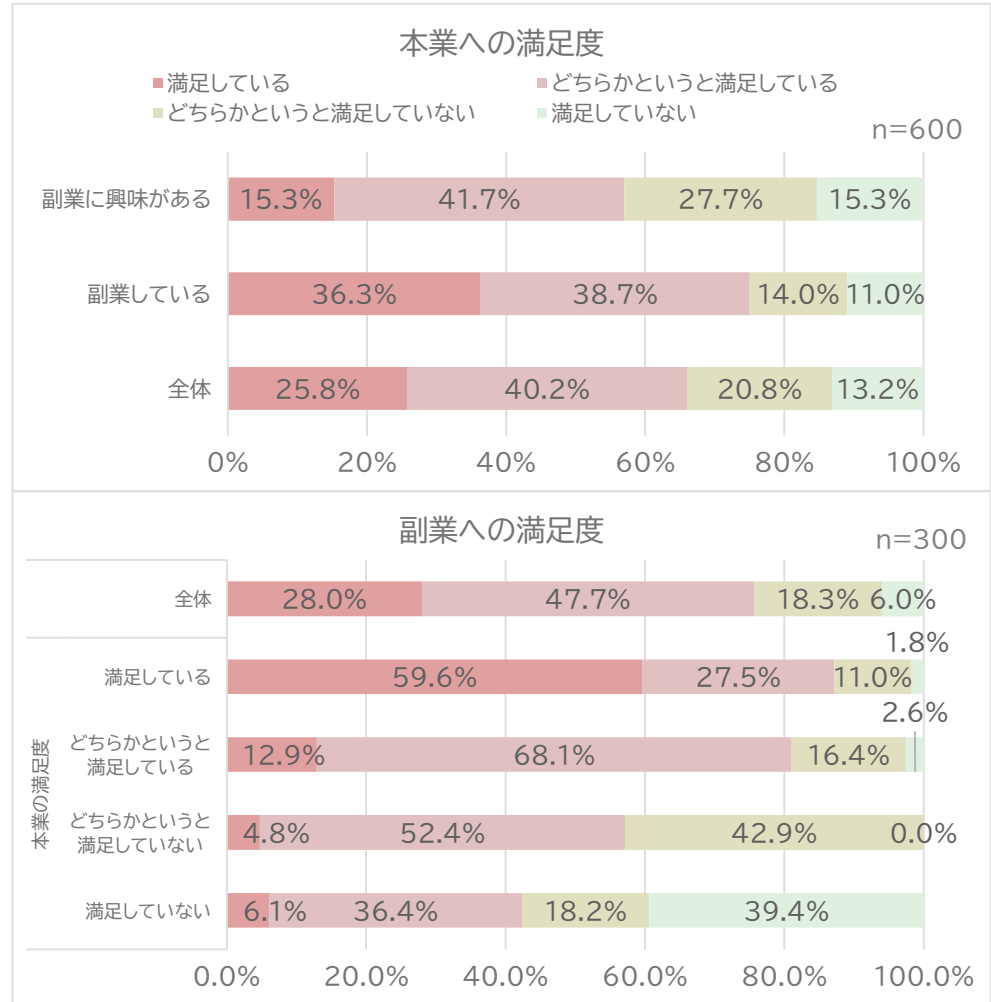
対象者全員に、本業への満足度をきいた。また、現在副業をしている人には、副業の満足度もきいた。

本業への満足度は、「満足している」が25.8%、「どちらかという満足している」が40.2%で、7割弱の人が満足と回答した。

副業の実施状況別にみると、「副業をしている」人の方が本業にも満足している割合が多くなった。

副業への満足度は、「満足している」が28.0%、「どちらかという満足している」が47.7%で、8割弱の人が満足と回答した。

本業の満足度別にみると、本業に「満足している」人の場合、副業も「満足している」が59.6%、「どちらかという満足している」が27.5%となり、9割弱が満足と回答した。一方で、本業に「満足していない」人の場合、副業も「満足していない」(39.4%)「どちらかという満足していない」(18.2%)という割合が増えた。



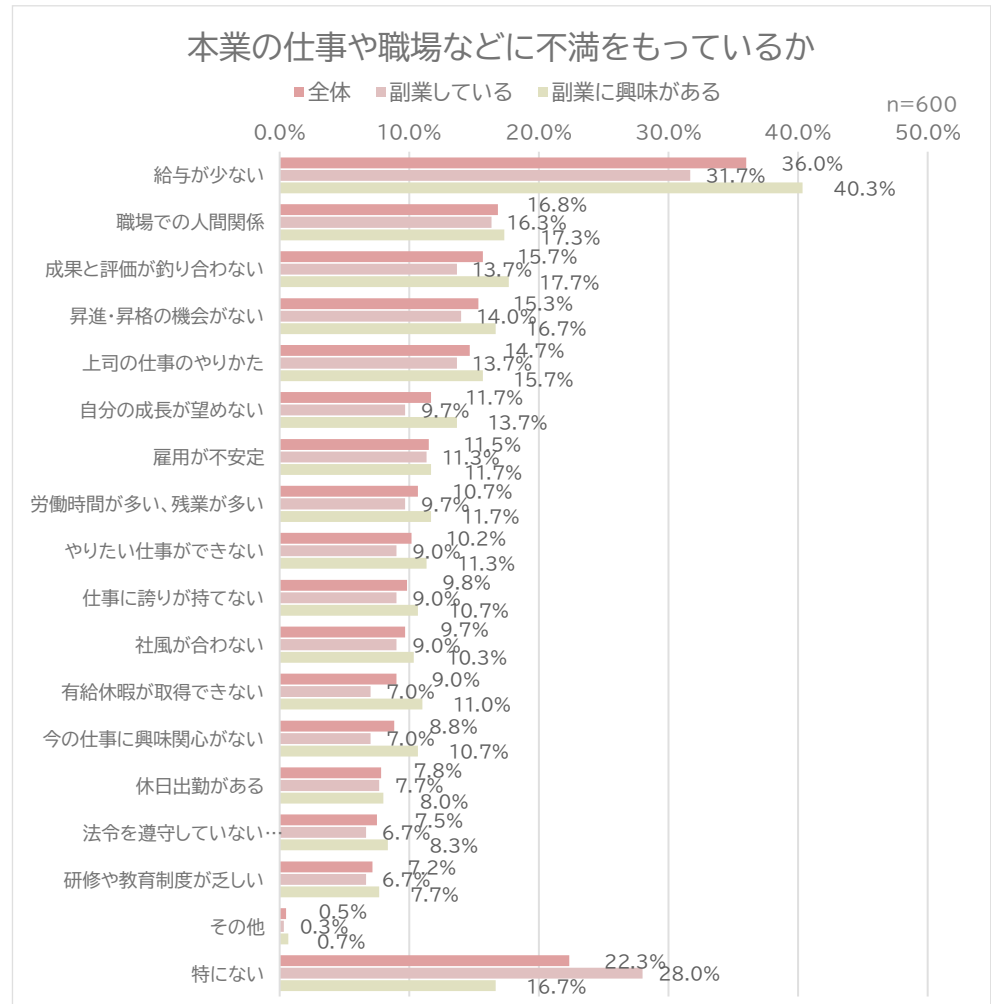
本業への不満について

対象者全員に、本業の仕事や職場などに不満はあるかをきいた(複数回答)。

全体では、「給与が少ない」が最も多かった(36.0%)が、次いで多かったのは「特にない」(22.3%)となった。

現在副業をしている人では、「給与が少ない」が31.7%、「職場での人間関係」が16.3%、「成果と評価が釣り合わない」が13.7%で上位に上がった不満だった。「特にない」は28.0%で、副業に興味がある人よりも10pt以上高い。

副業に興味がある人では、「給与が少ない」が40.3%、「成果と評価が釣り合わない」が17.7%、「職場での人間関係」が17.3%で上位に上がった不満となった。「特にない」を除き、「副業をしている」人よりも、どの項目でも不満の率はより高く、本業に何らかの不満を抱えている人が多いようだ。



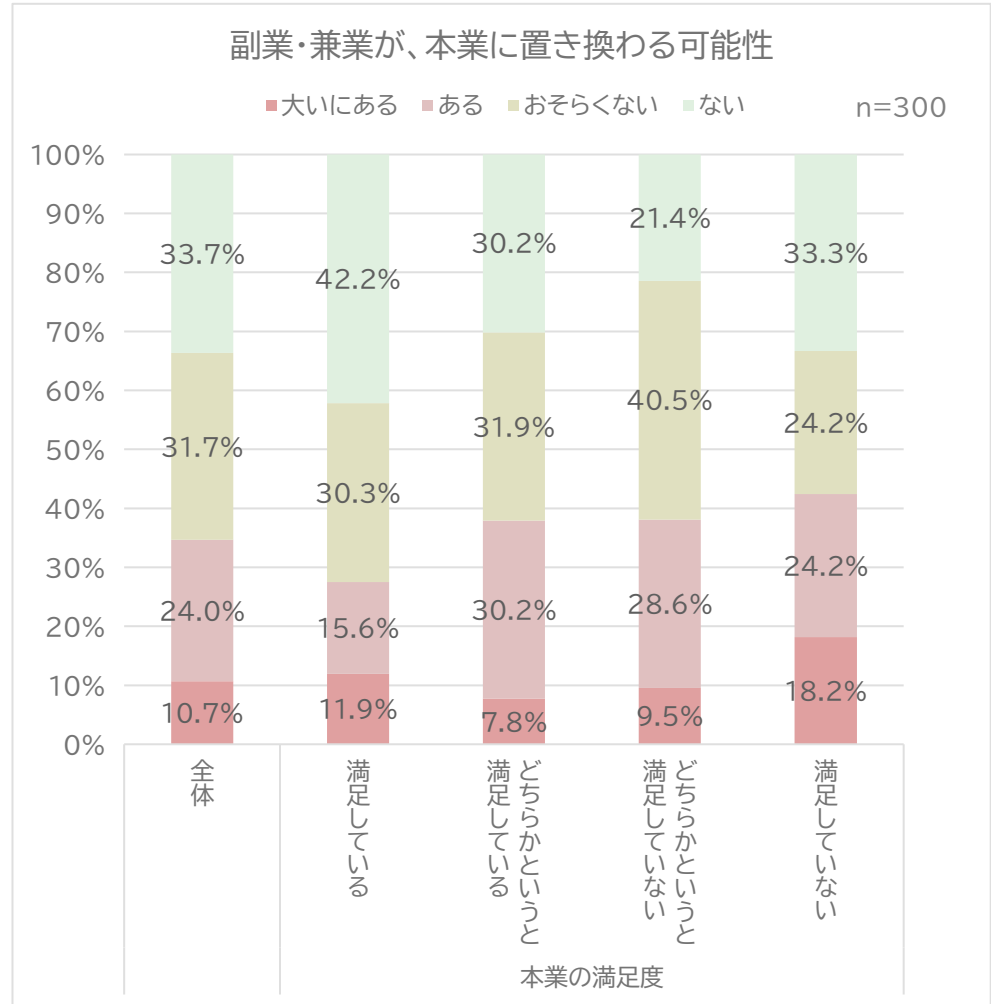
副業・兼業が、本業に置き換わる可能性

現在副業をしている人に、その副業・兼業が本業に置き換わる可能性をきいた。

全体では、置き換わる可能性が「大いにある」が10.7%、「ある」が24.0%、「恐らくない」が31.7%、「ない」が33.7%となり、置き換わらないという意見が6割以上となった。

本業の満足度別にみると、本業が「満足している」人の場合、「おそろくない」「ない」は合わせて72.5%となった。ただし、本業に満足している人の中でも、およそ4人に1人ほどは副業・兼業が本業に置き換わる可能性が「ある」と回答した。

本業に「満足していない」人の場合、「大いにある」が18.2%、「ある」が24.2%となり、約4割の人が副業を本業にする可能性があるという。



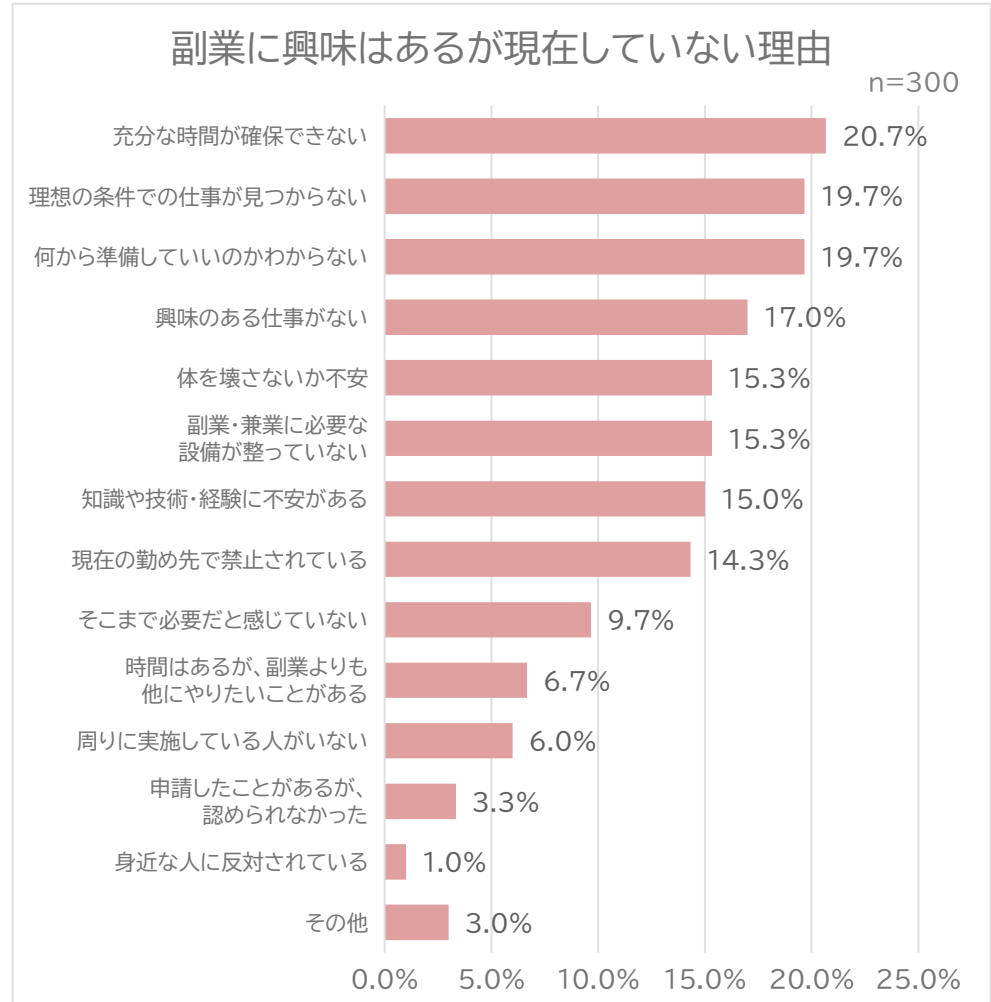
副業・兼業をしていない理由

副業に興味がある人に、興味があっても実際には従事していない理由は何かをきいた(複数回答)。

最も多かったのは「十分な時間が確保できない」で20.7%、次いで「理想の条件での仕事が見つからない」と「何から準備していいのかわからない」が19.7%、「興味のある仕事がない」が17.0%となった。副業自体は探しているがやってみたい仕事に巡り合えていないという意見が多いようだ。

準備に関しては、「副業・兼業に必要な設備が整っていない」(15.3%)や「知識や技術・経験に不安がある」(15.0%)も該当する。副業を始められるよう条件を整えることにハードルがあるようだ。

また、少数ではあるが「申請したことがあるが、認められなかった」(3.3%)や「身近な人に反対されている」(1.0%)という声もあった。



収入と副業・兼業への考え

対象者全員に、本業での収入が自身の満足できる額である場合、副業・兼業はどのようにするのかをきいた。なお、副業に興味がある人には、副業をしていると仮定して答えてもらった。

全体では、「収入に関係なく、副業・兼業を行う」が41.5%、「収入が充分なら、副業・兼業の仕事を調整する」が32.2%、「収入が充分なら、副業・兼業は行わない」が26.3%となった。約4割は、本業の収入に関係なく、副業を続ける意思があるようだ。

副業状況別にみると、現在「副業をしている」人では5割以上が「収入に関係なく、副業・兼業を行う」とし、今はしていないが「副業に興味がある」人は「収入が充分なら、副業・兼業は行わない」が34.3%と高くなった。

本業の月収別にみると、月収が高くなるにつれ「収入に関係なく、副業・兼業を行う」と回答した割合が増加した。一方で、本業の月収が「1～10万円未満」の場合、副業・兼業を収入補填的にとらえている人が多いようだ。

